

遺伝子は重要です。例えば、がん細胞では遺伝子すなわちDNA配列に異常が生じています。また通常の細胞でもDNAは常に損傷されています。

DNAに損傷を受けた細胞は、修復されることがほとんどですが、修復できなければ細胞死して悪影響を及ぼしません。しかし全ての人が持つがん抑制遺伝子などのDNAが損傷を受けると、細胞増殖が止まらず、がんになってしまふこともあります。

DNAの損傷を研究する上での問題は、細胞一つ一つの染色体のどこに損傷が起きているのか、分からないこと

学問は楽しい

一筆



小児科医

駒木 智

2017.6.22

でした。そこで私はアメリカでの研究時代、染色体の特定部位にDNA損傷を起こすことが可能なネズミを作製しました。しかもそれがDNA修復の研究にも使えるという画期的なものでした。私は力尽きて帰国しましたが、その後の研究は複雑すぎて後継者がおらず、そのネズミのES細胞(受精卵のようなもの)が冷凍保存されているだけです。

いるということは、研究を再開しようとすればいつでもできます。「ものは考えようです」と言いたいのですが、これは負け惜しみでしょうね。先週に続き、遺伝学のことを書きました。少しでも面白く感じた人には、「好奇心は保たれています、素晴らしい！」と伝えたい。そつでなかった人も心配なさらずに。面白いことは多少難しくても伝わるはずですよ。つまり筆者の文章能力が低いのです。本来、学問は楽しいのですから。